

恋の手ほどき (1958)

GIGI

メディア 映画
ジャンル ミュージカル
製作国 アメリカ
色彩 Color
時間 116分
初公開日 1959/06/13
公開情報 MGM

【解説】

コレット女史の『ジジ』はブロードウェイで舞台劇としてオードリー・ヘプバーンが主演を演じたが、これはそのミュージカル映画化で、「マイ・フェア・レディ」のラーナー＝ロウのコンビが作詞・作曲をし、フランス出身の永遠の少女キャロンがヒロインとなった。A・フリード作品らしく贅沢この上ない20世紀初頭のパリ・モードの再現が嬉しいが、ダンスの魅力を全く欠いて、ミュージカルとしては落第作だ。だが、その年のオスカーは作品賞をはじめ独占の体で、これは審査員が何よりもMGMミュージカルの落ち目を強く意識していたせいに他なからう。

狂言廻し的なシュヴァリエ扮するオノレイ・ラシェイス氏は、今はパリきってのプレイボーイの名を甥のガストン（ジュールダン）に譲った。しかし、未だに伊達男。ジジの祖母と真剣な恋もしたが、彼女は彼の浮気性が許せず別の男と結婚、ゆえに独り者である。さて、彼が画面に紹介する少女ジジは、毎日学校が終わると大伯母のアリシアのもとに出かけ、行儀作法をしこまれる。いかによい結婚相手をしとめるかーが究極のテーマ。ジジはネンネだが、遊び人のガストンとは互いに不思議とフランクにつきあえ、それがやがて恋へと発展していくのだが……。

その恋模様の後半にもう一波乱ないので盛り上がらないが、見事、おてんばから淑女に変貌するキャロンは素敵だ。ミネリの演出は、得意の前世紀の上流社会の雰囲気巧みにスケッチして淀みないが、それ以上のものではない。華麗で愛らしい映画だが、余りに過大評価を受けたことがこの作品の不幸だった。

【クレジット】

監督	ヴィンセント・ミネリ	Vincente Minnelli
製作	アーサー・フリード	Arthur Freed
原作	コレット	Colette
脚本	アラン・ジェイ・ラーナー	Alan Jay Lerner
撮影	ジョセフ・ルッテンバーグ	Joseph Ruttenberg
作詞	アラン・ジェイ・ラーナー	Alan Jay Lerner
作曲	フレデリック・ロウ	Frederick Loewe
音楽	アンドレ・プレヴィン	Andre Previn
出演	レスリー・キャロン	Leslie Caron
	モーリス・シュヴァリエ	Maurice Chevalier
	ルイ・ジュールダン	Louis Jourdan
	ハーミオン・ジンゴールド	Hermione Gingold
	イザベル・ジーンズ	Isabel Jeans
	エヴァ・ガボール	Eva Gabor
	ジャック・ベルジュラック	Jacques Bergerac

